

# 高校生男子が突然女の子になったらこうなる

・中身が身体と同じになるまでのお話2・



高校が実家から遠いので通う為に1人暮らしをはじめて  
数カ月が経ったある日

「はぁ・・・」

フラれた・・・

しかもかなりキツめにフラれた・・・

俺が女でもあんなきつい事言わないよ、うう

『もつと男らしい人が良い』とか  
そんなんもって生まれた性格だよ  
俺だつてもつと男らしくなりたかつたよ  
高身長でイケメンにもなりたかつたよ

ああもうやだこんな女々しい自分も嫌だ  
それならいつそ女の子になりたい・・・  
ああそれはそれで・・・楽しそうだな・・・  
・・・zzzz

……んっ、なんか髪の毛邪魔だな  
そろそろ切りにいかなきゃ  
あれ？やけに長い気がする

鏡……ああ洗面所行くのだからいわ  
あっ、カメラ使えばいいじゃん

携帯どこだ  
あつた

はあ、目がしばしばするなあ……



朝起きたら女の子になっていた



「ママか」

.....

すぐ順応した

この身体の画像つけてツイートしたらめっちゃコメントくれる  
みんなチャホヤしてくれてめっちゃ楽しい、ぐふふ

ふひひ

ああ遊んでたらこんな時間か

つつてもこんな姿じゃ学校にも行けないし

ん？なんだこれ



関連に何かエロいの出て来たぞ  
オナニー動画で小遣い稼ぎ？



。。。暇だしやってみようかな

● REC

「カメラでオナニー撮るの最初に考えた奴はヤバイ変態だな  
・・・めっちゃドキドキする」  
しかも女になって初オナニーがこれかよ、やべえ

ドキ  
ドキ





「んっかな。。。」

アッ

クッ  
クッ...

(うわあ。。。すげえきもちいら。。。  
感じ方が全然違う。。。)



「。。。イヤなんです。。。」



「はあ。。。はあ。。。手がズツちよズちよになっちゃった。。。  
ティッシュどうぞ。。。」



あつ、録画できてなかったわ  
。。。着替えたらもっかいしよっと



さてさてどんなもんかね・・・おお！  
結構売れてるじゃん！  
良いバイト見つけたわ

楽しくなってきたぞ！

数日が経過、動画は結構な小遣いになった  
そのお金でオナニーグッズを購入しては  
それでまた新しい動画を作っていた

ドキドキ

♪

「今日はこのサイズに挑戦してみようかな…」





「あーん...」

んう...」

「くあ...大きい...  
でもいけそう...」

ん。



「ふう……ふう……挿った」







(ふう・・・ふう・・・いった後お腹がキツイ・・・  
イキながら中に入ってるモノの形がわかるのヤバい・・・  
ぞくぞくする・・・)

『乗馬マシン+デイルド』

海外のポルノ動画サイトで見つけて  
めっちゃ興奮したので勢いで購入した  
今考えると我ながらアホな事したなあ

ドキ  
ドキ

「あの動画すげえ気持ちよさそうだったなあ  
そんな良いのかな？」



「んっ。。。ふう、入った。。。」

ズ  
ン  
ッ  
...

「とりあえず弱でやるか」



「んおっ、これは、結構良いかも。。。」

「ヤバイ、イタイク」



ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

「ふっ……」

♡ あん♡

っ

「はあ……はあ……  
見た目はちよつと……アレだけど……  
結構実用性あるじゃん……」

ピッ

「ん？」

ブル  
ん

ん



「ふあ！？強はダメだってえ！」




「あっあっ！だめだめ！こんなのだめえ！！！」









この動画も結構人気になった  
女の子になってから毎日が楽しい！  
でも最近『会いたい』とか  
『マジで犯してやりたい』とか  
物騒な事言う輩が増えてきたな・・・


「まあ本気で会いに来るような奴はいないだろ、たぶん  
そもそも特定するのなんて不可能だよな  
住所なんて男の時の名義だし、ハハハ」

一方その頃、隣の部屋

「ええ。。。」

驚かそうとこっそりアイツの家に入ったら  
初めて見る女の子が居て  
びっくりして隠れて見てたけど。。。。ええ





言ってる事がアイツみたいだわあの人  
というかアイツそのものだわ  
やべえ混乱してきた  
一人っ子って言ってたから妹じゃねえだろうし

つうかさつき男の時って  
。。。んな事あんのか？  
うーん、と、とりあえず、確認してみるか？  
外に居るていで電話を。。。

ん？電話？しかも非通知？

「はいもしもし」

「もしかして○○○○○（本名）？これから会わない？」

「・・・」



ああああああああ  
俺の人生終わったあああああ！  
何でバレてんの！？

これ絶対エロ動画見てるストーカーじゃん！  
今の非力な俺じゃ一瞬で押し倒されて  
服剥がれて・・・あわわわ



(切られちゃった。。。  
非通知でかけたのがまずかったか  
でもあの取り乱しようはやっぱそうなのか？  
。。。とりあえず俺ってバレたら怒られる  
逃げよ)

もうだめだ、おしまいだ  
俺はどうすりゃいいんだ。。。  
とりあえず誰かに助けを求めなくては



「……という事があってな、うう」

(こんなすぐ呼び出されるとは思わなかったが  
本当に予想があたるとは  
それはそうと乳やべえな)

ズーン

「ええと……全身そういう手術したのか？」

「**高校生の俺がそんな金あると思う？朝起きたらなってた**」

「まあそういうんじゃないよな……見た目に関しては何から何まで違うし」



「最初はエロ動画アップして『女の子楽しい!』とか言って過ごしてたんだよ  
でもな? 昨日女の子って大変って目にあってたんだよ、助けてくれ頼む」

「なるほどな、でも自業自得だな?」

「はい……」

「もうそういう動画出さないな?」

「はい……」

「あっ、でも鏡見てオナニーはしていいよね?

女になってから分かったけど快感がすごくてもうね

「それは勝手にしろ」

「はい……」



「よし分かった、俺がボディガードしてやるよ」

「……お？おおっ！断られるかと思った！いいのか！」



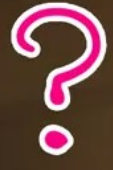
(元はと言えば俺の電話のせいだな)

「親友だからな、へへっ」

「……」

「どした？」

「いやさ、俺がこんななってるのに  
あんま驚かないなと思って」  
「。。。」



「もっと驚くもんじゃないやね？割と反応薄いし  
初めて見たにしては。。。」

「えっ。。。あー。。。まあ」





「・・・何で風呂までついてきてんの？」

「心配だしさあ」

「嘘つけ！おっぱい触りたいだけだろ！」

「うん」

「中身が俺だって言ってるのに・・・」

「いやいや、想像してみろって」

「目の前にエロい身体の女が居てだぞ、良い乳があつてだ  
お前は理性を抑えられるか？」

「**。。。無理だな**」

「だろ？それだよ」

「なるほど」

「。。。俺が言うのもなんだがちよろすぎない？」

「俺はエロについては寛大だぞ、お前の苦惱はよくわかる」

「お、おう」



「でも人に触られんの初めてだし手加減はしろよ？  
おもいつきりとか絶対だめ」

「おじやめてくれって言ったおじちゃんやめてくれな〜」

「わかってるわかってる」



「はあ……最高……」

モッ

モッ

「コイツやらしい触り方するなあ……」  
「でも胸ってこっやって触ればいいのか、んくっ」  
「……も、もういいだろ？」

「あとちよっとだけ」

数十分後

(いつまで揉んでんだよロイツ)



(こっちは胸だけですげえ感じてんのに...)

(...あっ、やばい、これ以上は)



「も……もうおわり！おわりだから！」

「いったのバレたか？……」

「ええ〜でももうちよっとだけ」

は  
♡……

は  
♡

♡♡

モジ  
モジ

「約束したたる！だめったらだめ！」

「わ、わかったって、ごめんよ」





「ところでさー、本番とかしてみたくない？」

「ぼっ、ばかやろうー！それはダメだ！」

「でも絶対気持ち良いぞ？やった事ないけど」

「。。。。。。だ、だめっ、だめだからな！」

「ダメかあ、じゃあパイズリは？」

「パイズリはあ。。。。」

「エロくない？」

「何で当然のようにパイズリさせられる流れなんだよ」

「乳を揉んでイク所まで見せられて

我慢して寝るとかお前なら耐えられるか？」

(イったのバレてる・・・)

ふんふん...

「お前だって逆の立場なら我慢できないって

そんなエロい身体してるし責任あるぞ」

「それは・・・一理あるかも・・・」

「そうだよ」





(気のせいか良いように言いくるめられている気がするが  
ボディガードしてくれてるし  
ここは自分が我慢するか)

ズシッ

(つうかコイツのデケエな!？くっそお・・・)

(うわーすげえブサイクな顔してんな  
やっぱ気持ちいいのか?  
してもらおう側がよかったぜ)

ムニョ  
ムニョ

ムニョ  
ムニョ

(・・・あれ?なんか俺もドキドキしてきた?  
な、なんでだろ?)





「……顔にかかっちゃったんだけど」  
「す、すまん」



「ああもう最悪……ひでえ臭い……  
つうかいつまで出してんだよ！出しすぎだぞ！」

「次はフェラしてほしいなあ」

「はあ！？また勝手な事言いやがって！  
それに今俺は怒ってんだぞ  
ちよつとは反省をだな・・・」

※説得



「・・・まあ・・・それも・・・そうかも」

「そうだよ」



(俺がチンポ見てドキドキするなんて

まあ今の姿なら別に变じやないけど、それでも……

やっぱ身体だけじゃなくて脳とか

心も少し変わってるのかなあ……)

ズリズリ

「……つうかペタペタすんなよっ！」

「AV女優の頬にちんぽ擦り付けるシーンあるだろ  
あれ好きなんだよね」

「俺も好きだけどされる方は……」

（……うーん）

グッポッ

んっ

んっ

グッポッ

んっ

（想像してたよりそこまで……というかさつきからこの気分はなんだ？よくわからないが、嫌じゃない、気がする……）

「……」

「もうお前完全に女だな」  
んぐっ！



げほげほ

「いきなり変な事言うんじゃねえよ！」

「えっ、改めてちよつとそう思っただけで・・・」

ガホ

ガホッ

「それでも言うなって！びっくりしただろ！」

「そんな取り乱すとは思わなかった、すまん・・・」



「ふっふ」

「ん」

「ぐん」

（何言ってるんだまったく……でも事実かもな  
女の方が性に合ってる）

（そういえば元々は嫌なことがあって  
いっそ女になりたいって……）

「……うっ、もう出そう」



ん

ん!!!

ん

おっぱい

「ご、ごめん！・・・大丈夫か？」



「やるか？」

「んっ、なにを？」

「本番」

「いいの!？」

「ちよつとどんな感じかなーって

興味があるっつうか・・・」

んっ

「なんだお前も興味あったんじゃんかー」

「ちよ、ちよつとだぞー!」



「興奮しすぎだぞ……」

(うわあ……。意識したらすげえ濡れてきた俺の方が我慢できてねえみたいじゃん！)

っっっ  
ハァ……

ドキ

ドキ

「じゃあ挿れるよ」

「お、おう……。ゆっくりだからなっ」











「おめん、このおまんこ一回・・・」  
「ん、おまんこ、いつか最中だ、やめ・・・」





「イってるっていったたるお。。ばかやるお。。」  
「ごめん。。」  
(やりすぎた)

ドゥルル  
ドゥルル

♡  
♡

ハッ  
ハッ

ホク  
ホク  
ふ  
ふ

ガ  
ガ  
ガ

わん

ズ

ズ

「お、おい、落ち着けって

「はあ、はあ・・・お前がエロ過ぎるから悪いんだよ・・・」

「激しすぎるって、もっと・・・もっとおっぴんぐ」





「ごめん、もう女としてしか見れなくて・・・  
嫌だったか？」

「.....」

(これ以上されたら戻れなくなる.....)

ドキドキ

は.....

は.....

ドキドキ

「ほんとごめん.....」

(.....いや、今更か)





「んっ」

「…?」

ブルッ

グッ  
チュッ

ガッ  
シッ



「……余計な事何も言うなよ

お前からしたんだからな

そういう気分にしたお前が悪いんだぞ」





「ほんとに生でいいの？」

「最後外に出せばいいよ。……つうかそれより

今更だけどさあ本当に俺で良かったのか？」

「？」

「初めてが俺でさあ〜」

んんん

ん……

「一応、身体は女だけど

ちゃんとした女じゃねえし……」

「……」

「こらっ！こっちは真面目に言ってるのに乳吸ってんじやねえ！」

「だ、だって我慢できないって……」

「だってじゃない！」

ムンムン

ムン

ムンムン

「さっきも言ったけどもう女としてしか見れないよ」

「ぐっ、ぞ、そうか……」

（考えてる俺の方が恥ずかしくなってきたぞ）



(.....おんるるる)  
「.....中出しっ」



「えっ」

「中出しっしてほしらって言っただよー」





「...」  
「...」  
「...」

「はあ...おき...」

はあ

あ...  
はあ...  
はあ...

はあ...  
はあ...  
はあ...

はあ...  
はあ...  
はあ...

はあ...  
はあ...  
はあ...

はあ...  
はあ...  
はあ...

はあ...  
はあ...  
はあ...

はあ

はあ

はあ...  
はあ...  
はあ...

はあ...  
はあ...  
はあ...



「……っ！」

えーと……

……。……。……。……。……。。

あれだから、気の迷いだから  
つうか今のは違うから」

「ほら」

か

んんん

んんん  
ルルルル

んん

んん

「人に言ったらあれするからな」

「はい言わないですはい」







「ふう、気持ち良かったぞ  
回数こなして立派な肉棒に育ったな」

んっ♡

んっ♡

「それは褒めてる？」

「褒めてる褒めてる」

(ほんとかなあ・・・)

(まあこれはこれで良い関係かも)

「ん？お前の携帯鳴ってるぞ」



「ほじとらてらるのよ」

「だって気になるし。。。あっ、すまん」



「何か変なとこ押して履歴出ちゃった  
ん？何だこれ、お前いつ俺に電話したの？  
あれこの目。。。この時間。。。」

「あっ」



「。。。」

「それはちがくてな？いやその勘違いしないでくれ！あの日はお前の家に遊びにいったんだよ」

「きてないだろ」

「あー・・・誤解しないで欲しいんだけど黙って家に入って・・・」

「黙って家に入ったとな」

「いやそうだけど、そういうことじゃなくて」

ガ  
ニ  
ッ



「決して悪気はなかったんだ！  
それでその時に色々見て・・・ええと・・・」

ゴゴゴ...

ギョ...

「全部見ていたんだな？」

「あの・・・はい見えました」

「あの時の電話かけたんだな？」

「はい、あっ、でも  
決していたはずではなく  
本当に心配してました  
それは本当です、はい」

「・・・」

「もう言い残す事は無いか？」

「あ、あの・・・お手柔らかに」

このあとめちやくちやポコポコにした

おしま











● REC

















































































































































